

平成28年度・事業報告書

社会福祉法人 コージー南国

1、法人事業報告

平成28年度も前年度に引き続き、法人としての立て直し(経営体制・運営体制)に努めた。平成26年度・平成27年度と2年連続して、単年度事業収支は赤字決算であった。原因は利用者数が減少したこと。加えてほぼ全ての加算を、要件が満たされなくなったことにより取り下げた事による。

ただ、平成26年度末(平成27年3月末)時点での利用者数8名から、平成27年度末(平成28年3月末)時点での利用者数15名と、1年間で利用者数をほぼ倍増することができた。ただ平成28年度は生活介護利用者数が、年度初めから増員を図ることができなかった。

この要因は、生活介護定員が10名に対し、実人員暫定超過11名と定員一杯であったため、地域活動支援センター等が受入れ不可と判断していたと考えられる。一方、就労継続支援B型利用者は、平成27年度末は3名だったが、平成28年度には6名に増加した

平成27年度は、ほぼ全ての加算を取り下げていたが、加算要件が整い現在、①送迎加算、②欠席時対応加算、③福祉専門職員配置加算、④人員体制加算、⑤看護加算が取れている。

また、処遇改善加算は平成29年度、ⅡからⅠへ移行予定。平成27年度の当期収支差額は-9,318,622円の赤字であったが、平成28年度当期収支差額は+8,395,399円と黒字化を達成できた。(詳細、決算報告書参照)

1、社会福祉法改正を受けた法人対応

平成28年度社会福祉法が改正され、社会福祉法人の責務がこれまで以上に課せられてきた。コーギー南国として理事会・評議員会において、社会福祉法改正の柱、内容に関して、国及び社会福祉経営協から出される情報を資料に基づき、必要に応じ説明を行った。

国から法改正に基づく福祉法人の果たすべき役割と責任、経営に対する責任、とりわけ役員と職員との責務について、これまで以上に問われることとなった事を受け、国の経営改善指導補助を受け、3回にわたって役員研修会を行った。

第一回(平成28年12月10日) 過去3ヶ年の経営財務分析と検証

第二回(平成29年1月28日) 社会福祉法人経営組織の有り方(理事の役割と責任について)

第三回(平成29年3月4日) 中期経営計画の策定

上記、研修会を通して理事・監事・評議員の役割責任を再確認した。

2、平成26年度における法人経営危機に係る自己検証

平成26年度に起きた法人の危機的状況について、今後二度と同じ状況に陥らないために、① わずか半年余りで、何故急激に利用者が多数退所したのか、② 役員として問題解決のためにどのような努力をしたのか、③何故、多額の費用をかけて、東京のコンサルタント会社と不適切な委託契約を締結したのか、これらの問題に対して、法人として自己検証を行った。

検証の結果、本来、定款や経理規程等に基づき、理事会等で諮り承認の必要な事項等が理事会等に諮られないまま行われるなど、不適切になされていたことを反省し、今後

このような事がないよう、今後は福祉法人としてのコンプライアンスを重要視した法人運営にあたることを、役員全員が再確認した。

II 事業運営報告

平成28年度の職員配置体制は、以下の体制で臨んだ。

平成28年度の職員体制

職 種	常 勤	非常勤	配置基準
管理者	1 (兼務)		1
サービス管理責任者	1 (兼務)		1
生活支援員	1	2	2
作業指導員	1	1 (兼務)	1. 3
医 師		1	1
看護師	1		1
事務員	1 (兼務)	1 (兼務)	—

平成28年度の利用定員は生活介護10名、就労継続支援B型10名、計20名
年度末の本年3月時点の利用実人員、生活介護12名、就労継続支援B型6名であつた。

平成29年3月末現在

事 業 別	定 員	実 員
生 活 介 護	10名	12名
就労継続支援B型	10名	6名

1、生活介護事業

生活介護は、利用者数がこの一年間増減0の現状維持で推移した。これは前述の法人報告でも触れたように、暫定定員超過状態であったため、地域活動支援センター等が受入れ不可と判断したためと思われる。

しかし、3月に山田養護の卒業生が1名利用となり、他にも利用問い合わせがあり、平成29年度より新規利用見込みとなっている。

活動内容は、午前が作業活動、午後に音楽活動・創作活動・スポーツレク・本の読み聞かせ・散歩・喫茶コーギーを行っている。

歌を歌う、自らなにかを作る、手足を動かす、落ち着いて人の話を聞く、仲間やスタッフと、飲み物を飲みながら談笑するといった、自己表現能力・運動能力・創作能力・コミュニケーション能力を、楽しみながら高め豊かにする活動に取り組んでいる。

どの活動もスタッフが無理強いせず、利用者が自ら自然参加することを大切に取り組んでいる。

次年度は、利用者からニーズのある、カラオケの導入・日帰りや一泊旅行・屋外でのバーベキューなど、できることから取り組んでいきたい。

平成28年度・生活介護の一週間の活動内容は、以下のとおり
生活介護

曜日	午前	午後
月曜	朝礼・作業活動	カラオケ
火曜	朝礼・作業活動	創作活動・スポーツレク・読み聞かせ
水曜	朝礼・作業活動	長距離散歩・創作活動・
木曜	朝礼・作業活動	創作活動・スポーツレク・読み聞かせ
金曜	朝礼・作業活動	喫茶コージー・戸外活動
土曜	休	休
日曜	休	休

生活介護利用者の月別利用状況は以下のとおり

月別	開所日数	利用実人員	利用延人数	備考
4月	20日	11人	220人	
5月	19日	11人	209人	
6月	22日	11人	242人	
7月	20日	11人	220人	
8月	22日	11人	242人	
9月	19日	11人	209人	
10月	20日	11人	220人	
11月	20日	11人	220人	
12月	19日	11人	209人	
1月	19日	11人	209人	
2月	20日	11人	220人	
3月	22日	12人	264人	新規利用1名増
合計	242日		2,684人	

生活介護の月別作業収入・工賃は以下のとおり

月別	箱折り	手袋成型	作業収入	作業工賃	作業収入に占める工賃比率
4月	36,264円	13,293円	49,557円	23,700円	47.8%
5月	8,176円	10,682円	18,858円	19,100円	101.2%
6月	15,113円	15,095円	30,208円	22,800円	75.4%
7月	10,652円	16,835円	27,487円	22,800円	82.9%

8月	34,804円	15,959円	50,763円	22,200円	43.7%
9月	20,818円	12,659円	33,477円	21,900円	65.4%
10月	28,793円	9,843円	38,636円	21,100円	54.6%
11月	26,100円	9,841円	35,941円	21,400円	59.5%
12月	31,342円	3,707円	35,049円	22,500円	64.1%
1月	7,062円	6,629円	13,691円	16,900円	123.4%
2月	6,450円	14,312円	20,762円	20,600円	99.2%
3月	8,168円	17,789円	25,957円	20,300円	78.2%
合計	233,742円	146,644円	380,386円	255,300円	67.1%

2、就労継続支援B型事業

就労継続支援B型は、年度初めの4～6月に増加した。それ以降は何度か見学には来たが、利用には至らなかった。

本年に入り、副施設長(現支援統括長)を中心に、営業活動を兼ねて地域活動支援センターを廻り、県に対し4月から定員増員変更申請を行っている旨伝え、受け入れ態勢は整っていることをアピールした事も功を奏し、4・5月で4名の新規利用につながっている。

作業内容は、主に昨年に続き浜幸の菓子箱折りがメインの作業で、他の作業として手袋成形袋入れ作業、松田医薬品の入浴剤梱包作業、矢の久さんのタオルのビニール袋入れ作業、グレースはま寿司さん用の割り箸の袋入れ作業等に取り組んだが、時季によって大きく変動があり、仕事があつたりなかったりの状況で、一定の作業収入まで至っていない状況である。

浜幸の菓子箱折り作業は、昨年からノルマと集出荷・在庫管理を日報で求めてくるようになり、また、通常量の箱折に加え、突発の追加箱折り作業を求めてくるなど、障害支援のための作業というよりも、一般下請け会社と同レベル的な作業を求めてきており、時には許容作業能力を超えるものを求められることもあり、箱折作業の見直しの必要性が生じてきている。

安定した仕事量と作業収入が上がることにより、利用者工賃のアップにつながる新たな作業の開拓が急務である。

就労継続支援B型の一週間の活動内容は、以下のとおり

曜日	午前	午後
月曜	朝礼・作業活動	作業活動
火曜	朝礼・作業活動	作業活動
水曜	朝礼・作業活動	作業活動
木曜	朝礼・作業活動	作業活動

金 曜	朝礼・作業活動	作業活動
土 曜	休	休
日 曜	休	休

ハ、就労継続支援B型利用者の月別利用状況は以下のとおり

月 別	開所日数	利用実人員	利用延人数	備 考
4 月	20日	4人	80人	
5 月	19日	4人	76人	
6 月	22日	5人	110人	新規利用1名増
7 月	20日	6人	120人	新規利用1名増
8 月	22日	6人	132人	
9 月	19日	6人	114人	
10月	20日	6人	120人	
11月	20日	6人	120人	
12月	19日	6人	114人	
1 月	19日	6人	114人	
2 月	20日	6人	120人	
3 月	22日	6人	132人	利用者1名減 新規利用1名増
合 計	242日		1,352人	

ニ、就労継続支援B型の月別作業収入・工賃は以下のとおり

月 別	入浴剤	タオル 形成	箱折り	作業収入	作業工賃	作業収入に占 める工賃比率
4 月			61,799 円	61,799 円	48,155 円	77.9%
5 月			49,634 円	49,634 円	50,878 円	102.5%
6 月			52,928 円	52,928 円	61,350 円	115.9%
7 月			112,659 円	112,659 円	67,946 円	60.3%
8 月			69,412 円	69,412 円	90,859 円	130.8%
9 月	1,282 円		71,310 円	72,592 円	66,719 円	91.9%
10月	2,737 円		51,733 円	54,470 円	71,140 円	130.6%
11月	3,500 円		56,421 円	59,921 円	69,203 円	115.4%
12月	1,802 円	6,480 円	91,207 円	99,489 円	106,525 円	107.0%
1 月		289 円	36,838 円	37,127 円	63,290 円	170.4%
2 月			64,690 円	64,690 円	75,562 円	116.8%
3 月			87,381 円	87,381 円	66,345 円	75.9%

合計	9,321円	6,769円	806,012円	822,102円	837,972円	101.9%
----	--------	--------	----------	----------	----------	--------

3、職員研修

平成28年度は、以下の研修を行った。

イ、施設内研修

施設内研修は、当初日程よりずれ込んだが、概ね実施することができた。

まず講師による講義を行い講義後、講師を交えて質疑も兼ねた意見交換会を行った。講義内容をより深めることが出来、研修の進め方としては効果的であった。

研修に当たっては、必ずしも指定テーマに限定せず、指定テーマに加え講師の意向を付け加えた形で行っている。

第一回 7月23日(土) 時間=9:00~12:00

講師 中川阿佐子 法人評議員・社会福祉士・SSW	① 職務の理解 (社会福祉・支援サービス)について
講師 長谷川憲隆 法人理事・施設長補佐	② 尊厳の保持・自立支援(人の尊厳・人権とは)について
講師 長谷川真弓美 育成会ライフサポート管理者 介護福祉士	③ 支援の基本 (個別支援・受容・人格の尊重)

第二回 11月26日(土) 時間=9:00~12:00

講師 田中正哉 ウィッシュかがみの施設長 川崎医療福祉大学非常勤講師	④ 障害の理解(障害タイプ別対応の仕方) ⑤ 虐待について
--	----------------------------------

第三回 H29年3月25日(土) 時間=9:00~12:00

講師 長谷川真弓美 副施設長兼支援統括アドバイザー	⑥ 支援費制度について
------------------------------	-------------

ロ、施設外研修

施設外研修は、B型事業は、就労支援関係の研修、生活介護事業は、現場からの実践報告、虐待防止に係る研修等、タイムリーなテーマの研修に参加させることが出来た。予算の関係で県内研修に留まったが、予算的に余裕ができれば、全国研修にも参加させたい。

研修実施日	研修事項	主催団体・研修内容
6月7日(月) 参加職員(事務長) 長谷川憲隆	県社会福祉経営者協議会 社会福祉法改正セミナー	会場 高知福祉交流プラザ
平成28年度	就業支援基礎研修	主催(高知障害者職業センター)

7月11日(月) 参加職員(就労B) 公文千喬	① 障害特性と職業的課題 I ② 障害特性と職業的課題 II ③ 就業支援のプロセスI ④ 障害特性と職業的課題III	(身体障害・高次脳機能障害) (知的障害・発達障害) (インターク・職業準備性向上のための支援) (精神障害)
7月13日 (水) 参加職員(就労B) 公文千喬	① 就業支援のプロセスII ② 障害者雇用の現状と障 害者雇用政策 ③ 就労支援機関の役割と 連携	(求職活動支援～定着支援実施方法他) (障害者雇用促進法の概要、雇用の現状 各種制度の等の理解) (ハローワーク、就業生活支援センター の役割・支援機関との連携方法)
7月20日 (水) 参加職員(就労B) 公文千喬	① 企業における障害者雇 用の実際 ② ケーススタディ・意見 交 換 ③ 労働関係法規の基礎知 識	(障害者雇用の考え方、雇用状況、業務 内容、制度の利用状況、支援ニーズ等) (就労移行支援等の具体的な支援のプロ セス、支援方法) (労働基準法・最低賃金制度に関する基 礎知識について)
主 催	ヤマト福祉財団	会場「大阪国際会議場」
7月27日 (水) 参加職員(看護) 岸本加代	障害者の働く場 パワーアップフォーラム 「経済的自立力を備えた新し い福祉を目指して」	① (重い障害のある人の働く場づくり) ② 精神障害者の仕事と暮らし ③ 障害のある人のディセントワーク ④ 経済的な自立力を備えた経営
9月13日(火) 参加職員(事務長) 長谷川憲隆	高知労働局、高知県共催 「雇用促進セミナー」	県民文化ホール
9月23日(金) 参加職員(事務員) 西村鈴菜	県社会福祉経営者協議会 「法改正と会計基準実務処 理」	高知福祉交流プラザ
10月18日(火) 参加職員(事務長) 長谷川憲隆	改正社会福祉法 対策セミナー	ちより町テラス
主 催	高知県知的障害者福祉協会	H28・第一回職員研修会

11月1日～ 11月2日 参加職員 (生活支援員) 小松美香	「もっと輝く支援現場へ」 一人を信頼し自ら悩む力を 育てよう	① 強度行動障害と支援 ② 福祉に携わる職員としての考え ③ 高齢化と重度化の現場から、利用 者さんが輝く未来を考える
主 催	高知県社会福祉協議会	会場「福祉交流プラザ」
12月12日 (月) 参加職員 (生活支援員) 小松美香	障害者虐待防止・権利擁護 研修	① 障害者の権利に関する法律とその背景 ② 支援現場における虐待防止の取組みを 進めよう ③ 夢を語れる組織経営
12月14日(水) 参加職員(事務長) 長谷川憲隆	県社会福祉経営者協議会 「労務管理研修会」	高知福祉交流プラザ
主 催	高知県知的障害者福祉協会	H28・第二回職員研修会
2月21日 参加職員 (副施設長) 長谷川真弓美	「もっと輝く支援現場へ」	① 事例発表 (3施設)
(生活支援員) 小松美香	～当たり前のことを大切に し、人として寄り添うこと ～	② シンポジウム

4、 防災訓練

平成28年度は、下記のとおり防災訓練を行った。火災避難訓練を2回、地震避難訓練1回、風水害避難訓練1回実施した。

各訓練とも避難誘導はスムーズに行われ、概ね3分以内で避難完了できている。ただ、地震訓練の際、事前に訓練の周知がなされず、職員・利用者共に直前となったことは反省しなければならない。

また、避難に当たっては、事前に個々の利用者の身体機能・運動機能・緊急時のパニックの有無等を把握し避難誘導することをさらに周知徹底したい。

訓練実施日	実施訓練内容	参加者数
5月20日(金) 11:00～11:30	火災避難訓練	利用者 15名 職員 7名
8月29日(月) 11:00～11:30	火災避難訓練	利用者 17名 職員 8名
11月21日(水) 11:00～11:30	地震避難訓練	利用者 17名 職員 8名

12月21日(水) 10:00 ~ 10:30	風水害避難訓練	利用者 17名 職員 8名
----------------------------	---------	------------------

5、行事

平成28年度行事実施状況

実施月	実施場所	実施内容	参加者数
4月22日 (金)	牧野植物園	春の季節を感じ気分転換を図る	利用者数 15名 職員数 9名
6月2日(木)	TOHO シネマズ高知	映画鑑賞会—仲間と映画を楽しむ事で感性を豊かにし、より親睦を深める	利用者数 15名 職員数 9名
7月15日 (金)	コージー食堂	お菓子作り—楽しみながらデザートを作り、気分転換を図る	利用者数 15名 職員数 9名
9月14日 (水)	南国市保健福祉センター	調理実習 「自分で調理して食べることで将来的に自立」	利用者数 17名 職員数 8名
10月12日 (水)	ほっと平山	秋の戶外活動 紅葉狩り、ピザ作りを通し自然の中で作り食べることを楽しむ	利用者数 16名 職員数 6名
11月15日 (金)	コージー食堂	クッキング —お菓子作り— 楽しみながらお菓子を作り、気分転換を図る	利用者数 17名 職員数 9名
12月7日 (水)	グレースはま寿司	忘年会 一年間を振り返り、みんな楽しく過ごす。	利用者数 17名 職員数 9名
1月4日 (金)	西島園芸団地	新年会ランチ ランチを食べながら花や植物を見てゆっくり過ごす	利用者数 17名 職員数 9名
3月16日 (木)	TOHO シネマズ高知	映画鑑賞会 仲間と映画を楽しむ事で感性を豊かにする	利用者数 17名 職員数 9名

6 健康管理

主に、生活介護利用者対象にバイタルチェックを実施すると共に、年間を通し体調変化の推移をチェックした。

異変等、気になる事があれば、家族に連絡し対応をお願いした。定期的には、以下のことを行っている。

- ① 毎日、体温測定と体調のチェック、
- ② 週／1回、体温・血圧・脈拍・体重等実施
- ③ 就労B利用者は、月／1回、体温・血圧・脈拍・体重等実施

※ 平成28年度の特記事項

① Aさん てんかん発作頻発、家族に連絡取り病院受診を進言と共に、発作による転倒時に頭を保護するヘッドギアの装着、発作が治まるまでの間、移動に車イスを使用などの対応を行った。また、病院の変更(現診療内容変更の相談)の検討を進言する等の支援を行った。

家族が病院を変更した結果、発作はほとんど見られなくなった。

- ② Bさん 低血糖発作時々あり、発作の前兆を見極め、その都度対応(糖分補給・安静等)するよう努めた。

7、日中一時支援

平成28年度の日中一時支援利用者は以下のとおり

利用時期	利用期間	利用実人数	利用延日数
4月	1～5日	1人	3日
7月	20～29日	1人	8日
8月	8～26日	1人	12日
8月	1～26日	1人	17日
12月	26～28日	1人	3日
1月	1・4・6日	1人	3日
合計		6人	46日

8、実習生受け入れ状況

受入れ期間	受入れ日数	受入れ人数	実習依頼先
平成28年5月16日～5月27日	11日	2名	山田養護学校
平成28年6月6日～6月17日	5日	2名	〃
平成28年10月3日・7日	2日	1名	若草養護学校
平成28年11月7日～18日	10日	2名	
合計	28日	7名	山田養護学校

9、次年度に向けての課題

平成28年度も利用者定員は、生活介護10名、就労継続支援B型10名の計20名に対し、実利用者数は3月末時点で生活介護12名、就労継続支援B型6名であった
平成29年度4月以降、生活介護および就労継続支援B型共に、新規利用予定者が

数名おり、現状だと定員超過となるため、支援費が減額となる。

従って、生活介護定員を10名から15名、就労継続支援B型定員も10名から15名に増員し、合計30名定員にすると共に、南国市内で作業等に適した貸事務所や貸倉庫的な場所を借り、使用する方向で進めたい。

また、就労支援B型への新たな作業種目として、平成28年度は入浴剤の袋詰め作業、贈答用タオル作業、割り箸の袋入れ作業があったが、常時ではなく時期的に仕事があったりなかったりで継続性がなく、また作業単価も低く利用者の工賃に反映するまでに至っていない。

今後も引き続き、作業の開拓に取り組む必要がある。ただ、手の込んだ技術を必要とする作業は厳しいため、シンプルな作業かつ、一定の作業収入が見込まれるものとなると、簡単には見つからないが、根気よく搜したい。

この2年は、経営改善と事業運営の安定化を最優先課題として取り組んだ。運営面も安定化してきており、コーギーに対する関係団体からの評価も好意的な評価をしていただいている。

平成29年度は、引き続き経営改善と事業運営の安定化を図ると共に、これまで以上に個々の利用者のニーズを事業に反映させていきたい。